

はつめい

当連載の第12話以降では、大阪・上町台地に立地する大阪ガス実験集合住宅NEXT21の第3フェーズ居住実験の一環として展開している「U-COROプロジェクト」※1にフォーカスし、地域の物語としての多彩なコンテンツの構成と、コンテンツへの関わりが育む、人と人、人とまちのつながりの再デザインの効果や可能性を追ってきた。前回、連載第21話では、U-COROプロジェクト第13回ウィンドウ・エキジビション「上町台地まちなかのプロフェツ

のなかで、水の恵みの分かち合いやリスクへの向き合い方を伝えていく、地域に根ざした生活文化の必要性やあり方に思いを馳せる契機としたい。

忘れてはならない水の恵みとリスク

古来、人は水のあるところにいのちを営んできた。今も昔も、その本質に変わりはない。水は、いのちやなりわいを支えるためになくはならないものであると同時に、時としてそれらを脅かす危険を運んでくるものでもある。

弘本 由香里

Written by Yukari Hiromoto

大阪・上町台地発
都心居住文化の創造へ
(第22話)

いのちとなりわいを
支える「水の縁」
ーリスクと恵みを分かち合うー

シヨナル々暮らしによりそう手仕事・ものづくり・まちづくりの紹介を通して、人とまちをつなぎ愛着を育む、手仕事・ものづくり・なりわいの力、まちなかのプロフェツシヨナルの存在価値を伝えた。

今回、連載第22話では、いのちとなりわいを支えるために欠くことのできない「水の縁」に着目した、U-COROプロジェクト第14回ウィンドウ・エキジビション「上町台地・水先案内」※2（2011年7月4日～11月11日）から、上町台地に刻まれた水の記憶を概観し、まちの深層に生き続ける水脈をたずね、水の縁に触れる。都市の暮らし

だからこそ、先人たちは、水の恵みを分かち合い、リスクを回避するために、生きる知恵としてのさまざまな生活文化を生み出してきたのではないだろうか。

しかし、今、改めて暮らしと水の関係に目を向けると、大いに便利になってしまった分だけ、恵みもリスクも意識しにくくなってきてしまっている。そのために、とすると水害や洪水などのリスクに対する感度は弱くなり、水は上流から下流までつながっている公共の資源という実感も、人間だけでなく多様ないのちにとって不可欠な資源だという認識も乏しくなりがちである。



図1 明治19年(1886)頃の大阪近傍地図

とりわけ、コンクリートで覆われた都市のなかにあって、人と水の関係の多面的なあり方を暮らしの折節に体で感じ取ることや、次世代に伝えていくことは大変困難なこととなってしまうている。ところが、よくよく目を凝らし、耳を澄ましてみると、水とともに生きてきたまちの原風景の入り口が、そこそこ顔を出していることにも気づかされる。

「上町台地・水先案内」では、明治19年(1886)頃の大阪近傍地図を展示し、次のようにまず都市・大阪の姿を想起している(※3)。

【水の都、それは自然や郊外と寄り添う都市の姿】
(前略) 市街の北端に大阪駅、南端に天王寺駅。JR

大阪環状線内がほぼ旧市街です。大阪駅北側を蛇行して流れるのは旧中津川。この川を直線化・拡幅したのが現在の淀川です。市街の堀川もすべて描かれ、郊外には都市と農村をつないでもいた水路が、縦横に走っています。自然や郊外とよりそい、生きる。それが戦前まで350余年持続した「水都」本来の姿です(図1)。

あわせて、土地の履歴を表した土地条件図も展示した。旧大和川の川筋や天井川沿いの微高地、自然堤防(低地の微高地)の存在、あるいはくぼ地や谷、池や谷を埋めた盛り土、海流がつくった砂州・砂堆などがはっきりと見てとれる。

古地図や土地条件図を下敷きに、現在の大阪の水害予想マップを眺めると、氾濫した水がかつての川筋をたどって広がることや、台地上でもくぼ地や谷など湛水の危険があることなど、注意すべきポイントやその理由をリアルに学びとることができる。

水とともに生きてきた まちの原風景再び

古代から現在に至るまで大阪の歴史が積み重なっている上町台地界隈を見てみよう。清水谷、細工谷、桃谷…。味原池、庚申池、毘沙門池…。利休井、越中井、梅の井…。古地図を参考にまちを眺めると、今も残る地名や水のスポットの背景に、数々の谷筋が刻まれ、大小の池が点在し、湧水に恵まれた、水の都・大阪の原点



写真1 からほり・路地奥田んぼ



写真2 田島北ふれあい広場・雨水活用

とでもいふべきかつての姿が浮かび上がってくる。コンクリートに覆われたまちの深層に、今もその原風景と営みが生息していることがわかる。「上町台地・水先案内」でめぐった12の水脈の中から、7箇所を以下に抜粋紹介する(※3)。

【からほり・路地奥田んぼ】

和想デザインは路地奥にある緑のデザイン事務所。古い建物を事務所に再生するだけでなく、地元の人たちと路地も再生し、井戸跡を再掘削し、空き地を田んぼにするなど、小さな空間を憩える公空間へ変貌させています。夏の終わりには楽しい地藏盆も。トンネル路地へ飛び込んでみてください(写真1)。

【田島北ふれあい広場・雨水活用】

田島北ふれあい広場は、空堀商店街から南へ入る坂道路地にあります。地元住民が2年近く話し合い、防災機能も兼ねた広場に再生されました。雨樋で集めた水をタンクに貯めて、手押しポンプで出せるようにすることで、文字通り井戸端会議の場となり、子どもたちの楽しい空間にもなっています(写真2)。

【幸念寺・上町台地西麓の井戸】

上町台地には城南寺町や中寺、生玉寺町など、いくつもの寺町があります。台地西麓に連なるのは下寺町。その寺院群のなかにある幸念寺には、今も二つの井戸があります。冬温かく、夏冷たい井戸の水は、参詣者の心を和ませるだけでなく、災害時には避難者のいのちをつなぐ役割も期待されています(写真3)。

【圓妙寺・台地に息づく水の寺】

上町台地の寺町の一つ、中寺。南北に貫く道はなだ

らかですが、その両側は台地西斜面の地形が豊かです。堀越しに見える鐘楼が印象的な圓妙寺には、水の寺の由来でもある井戸が、今も現役です。手押しポンプから溢れ出る水は、代を重ねる若い参詣者にも、水の寺のイメージを与えていることでしょう(写真4)。

【高津宮・梅の井と梅の橋】

高津宮への表参道は高津公園を縦断しています。その参道脇に文政2年(1819)と刻印された梅の井の井桁、明和年間(1768年頃)に奉納されたと伝わる梅の橋、そして梅の川の名残を留める池跡があります。春は花見、夏は虫取り、秋は紅葉と都会のなかで季節を味わえる空間からは、せせらぎの音も漏れ聞こえます(写真5)。



写真3 幸念寺・上町台地西麓の井戸



写真5 高津宮・梅の井と梅の橋



写真4 圓妙寺・台地に息づく水の寺

【玉造稲荷神社・利休井再生】

玉造稲荷神社の本殿前に利休井があります。豊臣家や大坂城と縁の深い神社の境内は、茶人・千利休の屋敷伝承地でもあります。上町台地に湧き出る清水は、次代を切り開いた先達にもさぞ好まれたことでしょう。井戸は2006年に有志によって再生され、先達の名を冠して往時を偲ばせています(写真6)。



写真6 玉造稲荷神社・利休井再生

【原点の会・上町乃水と天水】

天王寺区内の酒屋有志の集まり「原点の会」。四天王寺境内と上六近くに今も湧く井戸をもとに、15年近く前から「上町乃水」「天水」と名付けた酒造りを続けています。上町台地のまさに地酒として、密かにファンを増やしています。原点の会メンバーのお店や近鉄百貨店上本町店で購入できます(写真7)。

紙幅の都合で一部しか紹介できないが、変化の激しい都市にあってこそ、人と水の接点を入りに、人とまちの関係を丁寧についでいこうとする、いわば「水の縁」の再生ともいべき取り組みの数々が見られる。長屋が残るまちの路地の奥に誕生した、人をつなぐ広場のような田んぼ、社寺や旧家で大切に活用され続けている井戸、地域の防災・減災のために雨水を溜めて使う手押しポンプ、上町台地ならではの由緒ある名水が生んだお酒など、水を通してそこに生きる人々の物語を映し見ることが出来る。



写真7 原点の会・上町乃水と天水

第22話のおわりに

上町台地を走る大きな谷筋の一つ、清水谷界隈に、大阪ガス実験集合住宅NEXT21は立地している。建物の足元には、ビオトープが設けられ、生き物たちの憩いの場ともなっている。2011年10月1日、NEXT21/UCORoをスタート地点に、「上町台地・水先案内」で紹介した水脈のいくつかをたどるまち歩きイベントを行った。細川ガラシャゆかりの越中井、利休井再生の玉造稲荷神社、空堀界隈の路地奥田んぼや田島北ふれあい広場、水の寺・圓妙寺、梅の井・梅の橋と高津宮を経て、ゴールは上町台地の名水が生んだお酒「上町乃水」と「天水」。

水都・大阪の原点としての上町台地の「水の縁」に五感で触れ、水の恵みとリスクとともに生きてきたまちの記憶をたどった。その流れを未来へつなぐ旅への一歩となることを願って杯を掲げたのだった。

(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所特任研究員)

CEL

(※1) NEXT21第3フェーズ居住実験の一環としての地域コミュニケーションデザイン実験(UCORoプロジェクト)の概要等は、季刊誌「CEL」83号・84号・86号・88号・89号・91号・92号・93号・95号・96号「大阪・上町台地発都心居住文化の創造」(第12話)21話及びUCORoホームページで紹介している。
<http://www.osakagas.co.jp/company/eforts/cel/issue/cel/>

ウィンドウ・エキジビションや関連イベントは、UCORoプロジェクト・ワーキングが企画・運営している。2011年12月現在の同ワーキング・コアメンバーは、弘本由香里(大阪ガス株)エネルギー・文化研究所/上町台地からまちを考える会、橋本護(Bitrail)、早川厚志(まちづくり工房/上町台地からまちを考える会)。

(※2)主催・大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(CEL)、企画・UCORoプロジェクト・ワーキング、協力・足代健二郎さん、飯田郁子さん、浦野院次さん、圓妙寺、オダギリサトシさん、桂田秀人さん、加瀬敏夫さん、環境デザイン事務所素地、神田晃治さん、高津宮、幸念寺、原点の会、五條宮、澤田孝治さん、玉造稲荷神社、西代官山クラブ、富士原純一さん、和想デザイン、そのほかのみなさま(50音順)

(※3)UCORoウィンドウ・エキジビション14「上町台地・水先案内」での、地図解説・取材文はUCORoプロジェクト・ワーキングの早川厚志氏が担当。写真撮影・デザインは同ワーキングの橋本護氏・小倉昌美氏が担当。総合ディレクションを同ワーキングの弘本由香里が担当。